

# 会議録

会議の名称	令和4年度第3回川越市上下水道事業経営審議会
開催日時	令和5年1月16日(月) 午後1時55分 開会 ・ 午後4時00分 閉会
開催場所	中央公民館 3階 軽体育室
議長(会長) 氏名 *敬称略	議長:青木 亮(会長)
出席者(委員) 氏名(人数) *敬称略	青木亮(会長)、佐野勝正(副会長) 須賀昭夫、柿田有一、川口啓介、吉野郁恵、片野広隆、大泉一夫、 小ノ澤哲也、山崎宏史、宮岡寛、加藤榮壽、山口陽子、棚沢利郎、 菅間和範、横山三枝子、小池均 の各委員(17名)
欠席者(委員) 氏名(人数) *敬称略	なし
事務局職員 氏名(職名)	大成一門(上下水道局長) 【財務課】 矢野雄一(課長) 【給水サービス課】 依田光司(課長)、佐々木亮(主査) 【事業計画課】 小林武(上下水道局副局長)、目七里佳(副主幹)、小池雅之(主査) 【水道課】 新井賢一(参事) 【下水道課】 駒井和久(課長) 【上下水道管理センター】 石戸祐仁(所長) 【総務企画課】 内田真(上下水道局副局長)、飯野弘美(副課長)、野原茂久(副主幹)、 高梨義久(主査)、児玉陽介(主査)、小林泰貴(主任)、荒井咲樹(主事補)
傍聴人(人数)	なし
会議次第	別紙のとおり

<p>配布資料</p>	<p>(事前に配布した資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○資料 1      川越市上下水道事業経営戦略                  令和 3 年度取組状況報告書</li> <li>○資料 2      社会資本総合整備計画(防災・安全)及び(重点計画)の                  事後評価について</li> <li>○資料 3      営業業務委託受託事業者との契約について</li> <li>○参考資料 1   川越市上下水道事業経営戦略                  令和 3 年度取組状況報告書のポイント</li> </ul> <p>(当日の配布資料)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○会議次第</li> </ul>
-------------	---

## 議事の経過

発言者	議題 ・ 発言内容 ・ 決定事項
	<p><b>1 開会</b></p> <p><b>【傍聴希望者の確認】</b></p> <p>議長から傍聴希望者の有無について確認が行われ、事務局より該当者なしとの報告がなされた。</p>
	<p><b>2 報告事項</b></p> <p>(1) 川越市上下水道事業経営戦略 令和3年度取組状況報告について [資料1、参考資料1に基づき説明]</p>
議長	
事務局	
委員	資料1の13ページに記載されている浄水場の施設利用率について、数値が高すぎる場合は施設の余裕が少ないとされています。本指標は60%台で推移しているので、この程度であれば安心なのかなという認識はありますが、どの程度の数値になると余裕がないとの判断になるのでしょうか。
事務局	明確な基準はありませんが、今の数値よりも100に近くなれば余裕がなくなってきているとの判断になります。
委員	参考資料1の5ページに水道事業の検証結果として「新しい生活様式による水道の使用実態の変化」と記載されていますが、具体的にどのようなことを指しているのでしょうか。
事務局	コロナ禍前と比較して、家庭用の使用水量が増加している一方、大口使用者の使用水量は減少しているため、給水収益の減少という形で影響が出ています。
委員	コロナ収束後の使用水量は、大口使用者によって増加するのか、あるいは、人口減少や高齢化の進行に伴って減少していくのか、どのようにお考えでしょうか。
事務局	人口減少に伴い使用水量は減少するため、人口動態が収益に与える影響は大きいと思います。また、現在はテレワークなど生活様式や働き方も変化しているため、そういったことによる影響も今後出てくるものと考えています。
委員	参考資料1の4ページ、有収率の項目に「各取組を着実にを行う必要があります」と記載されていますが、具体的にどのような取組でしょうか。

事務局	<p>地盤が低かったり地下水の水位が高いエリアでは、マンホールや管渠の継手などから不明水が多く浸入していると推測されるため、管渠の更新等継続的な対策が必要だと考えています。</p>
委員	<p>有収率については、不明水の影響も懸念されますが、どのように対応していくのでしょうか。</p>
事務局	<p>有収率はここ数年で徐々に改善していますが、昨年度については年間降水量の減少が直接的な原因だと捉えており、楽観はできない状況です。</p> <p>一方で、令和元年東日本台風以降、有収率が特に低かった寺尾地区については、集中的に管渠の更新や不明水対策事業を実施してきたこともあり、50%台だった有収率は70%台まで回復しています。今後も継続的な検証が必要ですが、投資の効果が現れているのではないかと分析しています。</p> <p>不明水対策は、流域下水道維持管理負担金に直接影響するため、大変重要な課題として取り組んでいます。今後も処理分区ごとの有収率を的確に捉え、選択と集中という形で戦略的に取り組み、有収率を少しでも改善していきたいと考えています。</p>
委員	<p>管渠の更新後も降雨による影響は懸念されるので、更新の成果についてはしっかり検証してほしいと思います。</p> <p>また、参考資料1の5ページに検証結果のまとめとして、水道事業については適正な給水原価・供給単価、公共下水道事業については適正な処理原価・使用料単価と記載されていますが、これらについては、今後利用者の方々にもどのように協力していただくよう考えているのでしょうか。</p>
事務局	<p>経営戦略については、策定から5年以内に見直しを行うこととしており、現在は決算額と計画値との乖離等について検証を行っています。水道事業の場合、今後は県水の動向なども見極めながら検証をより精査し、適正な料金水準等について検証する必要があると考えています。</p>
委員	<p>今後、コロナの影響についても引き続き注視する必要がありますが、タイミングのよいところでしっかりと実施してほしいと思います。</p>
事務局	<p>現計画には、コロナの影響は加味されていませんが、計画を見直す際はそのことを含めて検討していきたいと思います。</p>
副会長	<p>上下水道施設はインフラ資産ですので、供給単価を上げないために必要な投資を抑えることは、後々何倍ものコストが発生し、将来に大きな禍根を残すこととなります。</p>

	<p>実施すべき投資をやらずに原価を見直すと、かえって市民に大きな負担をかけることになるため、計画の見直しの際は十分に注意してほしいと思います。</p>
事務局	<p>承知しました。</p>
<p>－ 休 憩 －</p>	
<p><b>（２）社会資本総合整備計画（防災・安全）及び（重点計画）の事後評価について</b></p>	
事務局	<p>[資料２に基づき説明]</p>
議長	<p>確認ですが、これは工事等が全部完了している案件ですね。</p>
事務局	<p>おっしゃるとおりです。本日は完了した工事等について、その事後評価の報告となります。</p>
委員	<p>説明のあったスクリーニング調査、テレビカメラ調査は、車を走らせて実施しているものなのでしょうか。</p>
事務局	<p>こちらの調査については、下水道のマンホール蓋を開け、棒につけたカメラを下に入れて管口を調査する簡易調査と、また、自走式のカメラを管の中で走らせ、亀裂箇所や水が浸入している箇所を把握するといった調査を実施しております。</p>
委員	<p>道路で車を走らせて行う空洞化調査といったものが以前から色々な地域で実施されており、川越市でも一部検討していたかと思いますが、その辺の方向性は何か考えられているのでしょうか。</p>
事務局	<p>道路舗装の下の空洞化調査というのは建設部で検討しているのかと思いますが、上下水道局では、下水道管の中にカメラを入れ、浸入している地下水や実際に穴が空いていないかといったところで調査をしています。下水道管には700ミリや800ミリといった太い管もありますが、例えば街路樹の根が管に入り込んで穴が空いているということもあり、そういったものは道路陥没の要因にもなります。下水道管の状況を調査し、早く改善しなければいけないものはすぐに施工部門で工事をするというように取り組んでいます。</p>
委員	<p>今回報告されたものは主に緊急輸送道路を中心にして実施されたものですが、今後、他の地域で同様の調査を実施する計画はあるのでしょうか。</p>

事務局	<p>大地震が下水道施設に与える被害の中に、液状化によってマンホールが浮上してしまうというものがあります。そのため、緊急輸送道路については、液状化対策事業ということで、集中的に補助金をいただいてマンホール浮上対策工事を完了させました。市内全域のカメラ調査については、幹線や枝線という位置づけがある中で、段階的に実施している状況です。</p>
委員	<p>いずれにせよ、道路陥没があちこちで発生しているというニュースを度々目にしますが、その大半は下水道管等に穴が空き、その上にある土が流れ込んで空洞ができ、一気に道路陥没となる流れが多いと思いますので、引き続きよく調査していただけたらと思います。</p>
委員	<p>資料には布設年数 40 年以上の管の長寿命化対策について記載されている部分があります。40 年経過した管は徐々に交換していくという計画なのではないでしょうか。また、長寿命化対策が済んでいない管もまだまだあると思いますが、今後の予定や計画等があれば教えてください。</p>
事務局	<p>下水道管には法定耐用年数があり、それは 50 年となっています。それを経過してしまうと、先ほど他の委員さんが懸念された道路陥没による大事故に繋がる場合があるので、その前に計画的に更生工事等に着手しているところがございます。まだまだ長寿命化率が高い状況ではないので、今後も引き続き、更生工事等に取り組む必要があると考えております。</p>
委員	<p>基幹事業として調査や設計、計画の策定など色々実施されていますが、実際の工事については、手順や期間など、どのように実施されていくのかお伺いしたいと思います。</p>
事務局	<p>先ほど説明した雨水対策事業に係る重点計画の中で、藤原第二公園貯留施設の施工については、財政状況が厳しい中、交付金の他にも起債の活用など、財政部局と相談しながら色々な手法を活用して実施しているところです。今年からは第一公園の貯留施設に着手しており、こちらの工事は今回の計画の中にはない補助金を活用して施工している状況です。下水道事業に関しては、アンテナを張り、今回の社会資本整備総合交付金に限らず、様々な補助金を活用して実施しているところです。</p>
委員	<p>資料を見て、報告事項 1 の経営戦略とよく関係しているなというように感じました。類似市と比べて課題のあるところについて、補助金を活用し、有収率向上や老朽化対策に繋がる部分を重点化して進めようといくつかの事業が選定されたように感じました。交付金ということで、こうした課題となっている部分は全国の各自治体が同様に戦略をもって取り組んでお</p>

	<p>り、類似市も当然こうした交付金を活用し、達成した点を挙げていくと思います。今回このように交付金を活用し、重点化して取組んだ結果、課題のあった部分が類似市と比較してどの程度進んだのか、評価の見解を聞かせていただけたらと思います。</p>
事務局	<p>川越市は下水道事業にかなり古くから取り組んでいるので、統計だけで比べると老朽化率が他の類似団体より高く、そういった数字に着目される場所があります。これは、経営戦略の報告であった投資・財政計画とリンクして取組んでいかなければならないため、先ほども申しましたが、川越市としてアンテナを張り、色々な交付金の中で活用できるものはなるべく活用し、老朽化率の改善や長寿命化、不明水対策や雨水対策に取り組んでおります。他の類似団体と数字上で比較すると非常に厳しいところもありますが、一定の御理解をいただけたらと思います。</p>
委員	<p>課題の達成について、類似団体と比べてどれくらい差があるのかというのは別の議論になるかと思いますが、課題としたものに向かって重点化してできるものは実施してみようということで、この交付金を積極的に活用してこれだけの事業を実施したので、活用できる交付金は最大限活用するのはよいと思います。一方で、工事について無尽蔵に計画することはできません。川越市で取り組める範囲、それから財源のことと併せ、達成した点はこういったものかを見るということで今回のような報告をいただいていると思います。実施してみて、新しい課題が見えてきたのか、自分たちが課題としていたところをどれだけ達成できたのか、そういった視点で少し見ていただけるとありがたいと考えますのでよろしく願いいたします。</p>
副会長	<p>評価の説明をお聞きして、結論はこのとおりで変わらないのだと思いますが、対象事業をどのように選定したのかという過程がよく見えません。できる限り交付金をもらいたいためだとか、課題のある地域を選んだなど、色々あると思いますが、どのように選んだのか、また、評価について内部でどのようなプロセスで行ったのかといったことを御説明いただけますでしょうか。</p>
事務局	<p>対象事業については、耐震化や浸水対策、老朽化対策といった国や県から示された交付金事業の中で、川越市で優先順位をつけて取り組んでいます。やはり交付金をもらうためには一定のルールがあり、例えば、単純に事業計画を作るだけではなく、長寿命化計画というものを別途策定しないと交付金は出ないなど、色々紐づけて総合的に取り組む必要があります。ですから、その中で川越市の広いエリア全体を一度に対象とすることは当然できないので、計画の中で優先順位をつけるなどして順次事業に取</p>

り組んでいるところです。また、管路の調査等の交付金については、対象となる管路に指定もあり、枝線といった小さな管に対しては交付金があまり出ず、やはり大きな陥没事故を引き起こす可能性がある幹線でなければ出ないといったこともあります。また、雨水浸水対策については、昨今、全国的に災害による被害が大きくなっており非常に使い勝手は良くなってはいますが、先ほども申しましたとおり、起債の活用など色々なメニューがありますので、財政部局と色々協議した中で選択をしているところでございます。

それと、事業の効果については、通常の普及事業ですと普及率や下水道使用人口といった数値が出てきますが、今回報告したものは事前防災事業といった側面があり、地震が起きてみないとわからない部分があるので、単純にはなかなか効果の検証というのが難しいところがあります。

雨水関係の事業についても、計画量に基づいて実施していますが、昨今はその計画量を超えるようなゲリラ豪雨が降るといったこともございます。被害の軽減事業という言い方になりますが、そういったところで補助金の要綱に合うような形で行っているところです。ですから、防災安全計画については一概に効果の検証がすごく難しいというのが正直なところです。

### (3) 営業業務委託受託事業者との契約について

事務局 [資料3に基づき説明]

委員 選考途中で辞退した1者は、どの段階で辞退したのでしょうか。また、辞退理由について把握可能なものはありますか。

事務局 その1者は、資料2ページの「6 契約までの主なスケジュール」のうち、「6 業務提案書の作成に係る質問の回答」までは行ったものの、「7 業務提案書、提案見積書等の受付」の段階で辞退しました。

辞退理由については、詳細に申し上げることはできませんが、機器の調達等の関係であると聞いております。

委員 辞退となった1者が提案に至らなかったことを踏まえ、今回のような方法が妥当なのかどうかを考察し、今後に活かしてほしいと思います。

もう一点伺いたいのですが、本市で下水道事業を実施している鶴ヶ島市の一部区域や、坂戸、鶴ヶ島下水道組合により下水を処理されている本市の一部区域等については、どのように業務を切り分けているのでしょうか。

事務局 鶴ヶ島市の一部区域では、本市が下水道事業を実施しており、本市の委託業者が下水道使用料の収納業務を行っています。下水道使用料は、水道使用量に応じて算出されるものですが、鶴ヶ島市の水量使用量は本市で把



<p>副会長</p>	<p>握できないため、坂戸、鶴ヶ島水道企業団から情報をいただいて使用料を算出しています。</p> <p>私は今回の選定委員会の委員長を務めましたので、先ほど他の委員から質問のあった途中辞退の件について補足させていただきます。</p> <p>受託候補事業者の選定にあたり、1者だけでの選考とならないよう、上下水道局にお願いして色々な業者に働きかけていただき、新たに1者が興味を示したものの途中で辞退する結果となりました。選考に必要な業務提案書を作るには多額のコストがかかってしまいますし、この辺の業界は数社で寡占状態となっているので、一度委託業者が決まってしまうと、他の業者はよほどの見込みがないと選考に参加してこないというのが現状だと考えています。競争原理を働かせるため、次回は複数の業者で選考できるように付帯意見としてお願いはしましたが、実際に業者が参加してくるかは非常に不透明だと思います。</p> <p><b>3 その他</b></p>
<p>議長</p>	<p>委員の皆様から全体を通じて、御意見・御質問等ありますか。</p>
<p>委員</p>	<p>近年、肥料の原材料不足に対応するため、下水の汚泥を利用した肥料づくりが話題になっていますが、将来的に川越市で行う予定はありますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>本市は下水処理場を有しておらず、処理は全て埼玉県が実施していますので、そういった取組を行う予定はありません。埼玉県で管轄している流域下水道では、そういったことに取組んでいるかと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>米軍基地付近の地下水が汚染されているといったニュースを耳にすることがありますが、川越市の地下水の状況はいかがでしょうか。また、今は地下水の利用量は少なくなっていると思いますが、私が子供の頃は周りでみんなが地下水を飲んでいたという記憶があります。突然地面が陥没してしまうという危険はないのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>本市では水道水の水質検査を行っており、その基準値を超過する項目は現在ありませんので、安心して水道水を御利用いただけます。また、地下水は、埼玉県との取り決めの範囲内で取水していますので、地下水の取り過ぎによる地盤沈下は今のところ発生しておりません。</p>
<p>議長</p>	<p>その他、御意見・御質問等ありますか。</p> <p>—意見・質問なし—</p>

議長	<p>そうしましたら、事務局からお願いいたします。</p>
事務局	<p>事務局から来年度の審議会開催について、御案内させていただきます。令和5年度第1回審議会につきましては7月頃の開催を予定しております。それ以降の開催スケジュールにつきましてはその都度御案内させていただきます予定です。</p>
上下水道局長	<p>本日の審議会をもちまして、今年度予定しておりました議題は全て終了となります。緊急の案件がない場合には、本日は今年度最後の審議会となります。様々な議題につきまして、御審議いただきありがとうございました。</p> <p><b>4 閉会</b> 閉会のことば（佐野副会長）</p>